

令和6年度 自己評価・施設関係者評価報告書

令和7年2月21日

学校法人華光学園 認定こども園長岡和光幼稚園なごみ保育園

1. 本園の教育及び保育の目標

知・徳・体、調和のとれた保育
ほとけさまを拝みます／お話をよく聞きます／なかよく遊びます

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した園評価の具体的な評価項目や計画

(3歳以上児) 心豊かにたくましく やりぬく力を育てよう
(3歳未満児) 愛情いっぱい寄り添い育てる 笑顔の魔法

3. 自己評価の実施状況 / 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 実施日	2024/10/23	評価 方法	毎月の保育の振り返りを基に、園で定めた50項目に沿って評価する。
-----------	------------	----------	----------------------------------

	具体的な評価項目	評価	取り組み状況
1	言葉や口だけでなく、率先して身体を動かしていますか。	A	すべての場面とまでは行かないが、概ね率先して動いていた。
2	保護者からの相談や要望に積極的に耳を傾けていますか。	C	人によっては積極性に欠けるところもあったが、しっかりフォローできた。
3	保育室の環境構成を工夫しましたか。	B	クラスによっては工夫が足りないところもあったが、改善に努めていた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 施設関係者評価の実施状況

評価者	小学校長、幼稚園長、保護者役員代表		
評価 実施日	令和6年10月23日(水)	評価 方法	自己評価、指導案等を閲覧、確認後、公開保育を用いて施設関係者より評価をいただく。

※公開保育の取組と組み合わせて施設関係者評価を実施した場合のみ、公開保育の実施状況が分かる資料を別途添付すること。なお、公開保育と施設関係者評価をどのように組み合わせたか分かるようにすること。

評価者の意見

■施設関係者評価 (小学校校長、幼稚園長)

- ・皆楽しそうに活動していて、一人でボーっとして活動していない子がいなかった。
- ・滑り台利用のおやくそくなど、聞く姿勢ができていてきちんと理解していた。
- ・保育者の園児を見守る姿勢や連携がよく、トラブルへの対応も適当であった。
- ・3学年の異年齢且つ自由遊びを複数の保育者で関わることで、若手の保育者にとってベテランの動きが見本となり学びにつながっていると感じた。
- ・園児が自分のペースで遊び込める環境であり、園児同士の協力も自然にできていた。
- ・困ったら助けを求めることができる環境は、園児にとって安心感を得られているように感じた。
- ・ボール遊びや相撲、縄跳びなど飽きやすい活動も保育者が記録をつけることで、長い時間取り組むことができていた。また跳んだ回数や勝利数など数字に自然と触れることができていた。
- ・まとあてが最初全然当たらなかったが、保育者が投げ方など園児同士話し合うよう声掛けすると上達していった。
- ・園児がうまくいったことなどを担任に知らせに行く姿から、担任との信頼関係がよくできていると感じた。

(「幼稚園における学校評価ガイドライン」を参考に一部改変)

■施設関係者評価 保護者代表

子どもの普段の様子が分かって、面白かったです。

公開保育のなかで、様々な運動の機会を取り入れている様子を見ることができ、それぞれがルールに従い取組む姿が微笑ましかったです。

また、片付けの際に協力して片付けが出来き、子どもが声をかけ合って取組む姿も良かったです。

■A 幼稚園教諭

異年齢での交流の中、一人ひとりが自分の好きな遊びを見つけ、そして選んで遊ぶ姿が見られました。

自分で選択する機会を大切したり、先生方が側で見守り、必要に応じて優しく声がけをされていた様子が印象的でした。

どの子も「やりたい！」と思う気持ちが強くあり、子どもたちが自分のペースでじっくりと集中して遊びに夢中になっていました。

自園でも子どもたちとやってみたいと思う活動もありとても参考になりました。

0～2 歳児さんの保育室も見せていただきありがとうございました。

たくさんの遊びのヒントをいただき大変実りある時間となりました。

■B 保育園副園長

子ども達が安心した様子で、自由に好きな部屋を行き来している姿が見られました。普段からのびのびタイムで異年齢交流が盛んに行われているからこそその姿だと思いました。

サッカーからドッジボールに変える、滑り台の所に虹（ビニール）のトンネルを用意するなど、子どもの姿を見ながら環境を変化させている姿は参考になります。新聞紙遊びで、子ども達の発想を生かそうと丁寧に関わる姿にも共感がもてました。大縄跳びは一人の子どもがたくさん跳んでいたのも、待ち時間が長くなるという場面がありましたが、待っている子ども達が自然と応援や感嘆の声をあげていました。他児の頑張る姿を認め合える人間関係が育まれていると感じました。

運動遊びが多かったのも、子ども達がやりとりを楽しめるごっこ遊びの様子なども見てみたかったです。主体性や豊かな人間関係育むための保育の工夫など参考になりました。

■C 幼稚園教諭

のびのびタイムといった異年齢交流があり、子どもたちが好きな遊びを好きな場所で選択して遊ぶことで子どもたちも生き生きと過ごしている姿が印象的でした。始める前にドッジボールとサッカーの時間を子どもたちと考えて分けて行うことで子どもたちが「ドッジボールの時間だ」と気が付きホールに向かう姿を見て、自分の好きな遊びをしっかりと見つけているんだなと感じました。保育者の皆様も子どもたちの遊びを傍で見守りつつ、必要に応じてホールの滑り台ではカラーポリ袋を用意したり、新聞紙ではほうきや服を作ってあげるなどすることで子どもたちの遊びがより盛り上がり、充実しているように感じました。

保育室の装飾ではそれぞれのクラスがハロウィンの装飾があつたり、以上児になると、考えたこと、調べたことを文字に起こして、記録し飾っているのも印象的でした。また、遊びの中でも、相撲の勝ち負けや縄跳びの飛べた回数など、子どもが目に見てわかりやすいような方法で遊びを援助していて、自園でも続けていきたいと思いました。

5. 施設関係者による評価（上記 3. の自己評価結果に関する評価）及び意見の概要

園児一人一人の思いに寄り添った活動ができていた。園児同士も協力したり、助け合う様子が見られ、日頃からコミュニケーションがよくとれていると感じた。
--

6. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育室内の環境構成	遊びの連続性、多様性を高めるため、コーナー保育の充実を図る
2	園庭の環境構成	水、砂、植物といった自然物を活用した発想豊かな保育の実践に取り組む。
3		

7. 自己評価の結果・施設関係者評価の結果の公表の状況

公表 時期	令和7年3月末頃	公表 方法	ホームページ上で公表
----------	----------	----------	------------